

「成田用水」の焦点 三里塚二期攻撃



日刊 勤労千葉

82.9.13

No. 1145

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)八(公衆電話)三三三二七二〇七

10月へ総決起し成田用水攻撃を粉碎しよう

政府・空港公団は、「成田用水」事業の推進をもって、反対同盟解体Ⅱ二期着工攻撃の最後にして最大の攻撃をかけてきている。反対同盟は、昨年末に明らかとなった石橋・内田氏ら反対同盟幹部を巻き込んだ「話し合いⅡ同盟解体」攻撃に対し、十七年間にわたる空港絶対反対・一切の話し合い拒否・実力闘争の路線をあくまでも貫くことをもって、この重大な敵の攻撃をものみごとに粉碎してきた。そして、今日、追いつめられた政府・空港公団は、「成田用水」攻撃をもって、反対同盟を総条件賛成派化し、「八二年度内用地問題解決Ⅰ八三年二期着工」をなしとげようとしている。われわれは、八一・三闘争を頂点とする十数年間にわたる労農連帯のキズナにかけて、十・一一、三里塚へ総決起し、政府・空港公団の重大な攻撃を粉碎しよう。

反対同盟解体を狙った「成田用水事業」

「成田用水事業」とは一体何か。事業計画書には「従来行われてきた用水事業と違って騒音対策の見返り事業として実施するもの」と明記されている。

しかも、他の一般農業用水事業に比べ、資金補助率を二〇%上のせし、九三・五%という異例に高い補助率の資金が国と県から出されるものである。

そして、この用水事業の「受益対象地域」が七八年五月の暫定開港後、B滑走路直下にあたる芝山町菱田地区(騒音法の適用で廃村の対象となっている地区)にもわざわざ拡大されたものである。

このように、「成田用水事業」は、「……騒音対策の見返り事業」つまり、空港との共存共栄Ⅱ反対同盟を条件賛成派化させ、あくまでも二期工事を推進するためのものである。

こうした意図をもった「成田用水事業」推進のために政府・空港公団は、「行革対象から除外」された「成田財政特例法」にもとづく膨大な「農民買収資金」を投入し、反対同盟を内部から切り崩しにかかっていたのである。

そもそも、政府・公団は、あの肥沃な北総台地に空港建設を強行し、農民にとって生命でもある水源を破壊しておきながら「水が必要なら成田用水を使え」と農民に屈服をせまっているのだ。このような理不尽をどうして許せようか。

一切の敵対を粉碎し、十・一一 三里塚現地へ総決起しよう

「成田用水事業」は、政府・空港公団が打ち出した二期着工のための反対同盟切り崩し策動の「和解十一項目Ⅱ西村構想」の中軸であり、最後の切り札である。

しかも、今日、全く許せないことにかの革マル派(国鉄内では、勤労「本部」を牛じり、「働こ

う運動」を全組合員に強制し、今や、臨調・行革攻撃の先兵となっている革マル反動分子)は、その機関紙「解放」の最近号において「反対同盟の北原事務局長が権力と密通した」などという全くありもしないデマとベテンをもって反戦・反核闘争の皆Ⅱ三里塚闘争の破壊に政府・空港公団・権力一体となっておそいかかっている。

危機に頻する支配階級がその一切の矛盾を労働者人民に転嫁し、軍事大国化・改憲・戦争への道へのめり込もうとしているとき、革マル派は、支配階級の危機を見ることなく、逆にこの支配階級の危機にかられた攻撃を利用し、わが勤労千葉や三里塚反対同盟など闘う労働者人民への敵対を強めている。

われわれは、今こそ、労農連帯のキズナにかけて、三里塚反対同盟を守り抜き、十・一一現地への総決起をかちとり、臨調・行革をはじめとする一切の反動攻撃を粉碎しよう。

またも開始された革マルの 悪質なデマ宣伝を弾劾する!

北原事務局長、怒りの談話Ⅱ

三里塚闘争の破壊をたくらむ革マルを徹底的に弾劾する!!

機関紙「解放」の記事はまったくの事実無根、いつわりである。「成田署との密会」など絶対ない。「写真」は稚拙な合成写真だ。問題の五月十八日当日、午後五時から十時までの間、私は多古町の親戚の家に行った。

だがこのようにアリバイを語るのもいまいましい。というのも、革マルが機関紙で悪らつなデマを流すのは、ただただ三里塚闘争を押しつぶすことに狙いがあるからだ。デマ記事は私にむけられているだけでなく、全同盟員、また同盟を親類してともに闘う人々にむけた凶悪な攻撃だ。

今回、合成写真まで偽造したり、用水問題もち出しで襲いかかってきたことに怒りをおさえられない。革マルの本性ここに見たりという気持ちだ。絶対に許せない!! 闘いの場からの一掃をさらに強力におし進めよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!